

事業収支を

意識した取り組みを



堀内 隆弘 議員

イベント事業等の収支の状況や意識はどのように取り組まれているのか。お金をかけて交流人口を増やすというよりは、交流人口を増やして経済を活性化させる意識が必要ではないか。

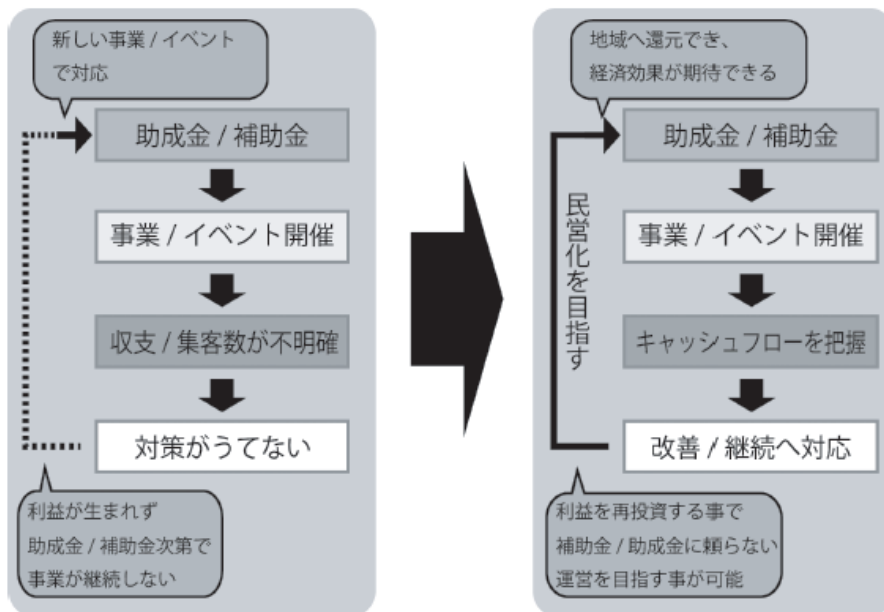
答 福井町長

基本的にはイベントをやらずに交流人口を増やすべきだと考えているが、開催する場合は黒字であることが理想である。一度、どのような利益が上がっているのか調査し、検討することも必要かと思う。

答 西沢産業課長

各業者の収益を把握する

ことは非常に困難かと思われる。本来、町としては赤字でも黒字でもなく、プラスマイナスゼロを目指して開催しており、あくまで町内業者の収益増を図るための事業としてイベントを開催している。



地域おこし協力隊・
集落支援員の
応募状況は

答 堀内議員

応募はどのような状況か、任命された方は、どのような取り組みをしてもらう予定か。

答 福井町長

地域おこし協力隊は0人、集落支援員は応募2名、十分な人員を確保できていない。

採用した方々は「空き家の活用」「一次産業の活性化」「天体望遠鏡の製作」に関わってもらいたいと考えている。

答 西沢産業課長

現在の地域おこし協力隊2名は引き続き勤務してもらう予定。
集落支援については、主に空き家対策、使用できる古民家の掘り起こし、地域おこし協力隊と連携してやってもらうと考えている。

ふるさと納税への 今後の取り組みは

答 堀内議員

意欲的に取り組むと聞いているが、順調に進んでいるのか。

答 福井町長

現在は着手できていないが、来年度からは積極的な制度の活用について検討し、他

答 仁田総務課長

特典の内容とともに研究が必要でないかと考えるので検討していきたい。

町に負けないよう実施していきたい。